

# 地区における妊産婦死亡

鹿児島大学医学部産科婦人科

森 一 郎 有 馬 直 見  
森 田 明 夫 新 川 義 容

県立鹿屋病院産婦人科

何 沢 智 恒

県立大島病院産婦人科

沖 利 貴

## 研 究 方 法

昭和49年から昭和54年の6年間に本県で発生した妊産婦死亡60例について、調査を行ったが実際に調査可能であったものは53例であった。

## 研 究 結 果

### 1. 死因の分類

死亡原因については、表1のように、その他が最も多く、妊娠中毒症、出血、他の順であった。その他の内容は羊水栓塞、循環障害が殆んどで、いずれの年代でも最高率を示した。最近の傾向としては、出血によるものが増加の傾向を示し、特に本土でめだち、離島では逆に減少の傾向にある。

### 2. 初・経産別と既往症

不明を除くと初産14例(41.5%)、経産27例(65.9%)で経産(特に最近本土)に多かった。既往症は不明の14例を除いた残り39例中20例(51.3%)に認められ、妊娠中毒症、心疾患、以下糖尿病、結核などの順で、傾向は本土・離島間で差はなかった。

### 3. 死亡時期及び異常発現より死亡までの時間

死亡時期は表2のように、死亡は産褥が大部分を占めるが、最近やや減少の傾向を示し、離島に比べ本土で依然多く見られた。

次に異常発現より死亡までの時間をみると、54.7%が5時間までで、最近の傾向として離島でこれがめだっていた。

### 4. 死亡年令

35才以上の高年妊産婦は昭和49～51年5例、同52～54年6例と相変らず高率を示し、本土では増し殆んどが妊産婦であった。

### 5. 受診状況

母子手帳の交付は、不明を除いた36例中本土

の6例(16.7%)が受けていず、昭和52～54年が5例で、6例中4例が33才以上であった。このうち受診回数のおかった22例中13例(56.5%)が4回以下で、傾向としては本土が高率を示し、また検診者のおかった23例中20例(87.0%)が医師で、この割合は年代別、本土・離島間で差はなかった。

### 6. その他

児の予後は過半数が母とともに死亡していた。分娩の場所は殆んどが病院もしくは診療所であるが、助産所3例(5.7%)、自宅5例(9.4%)があった。自宅分娩はいずれも離島・僻地であるが、最近は減少の傾向を示している。分娩介助者は約76%が医師で、残りは助産婦もしくは手遅れで医師へ移送されたもので離島でこの傾向が強い。

## 考 察

昭和49～54年間の鹿児島県の妊産婦死亡53例を前3年間と後3年間にわけ、本土・離島間を比較してみたところ、死因については、全体として、その他、妊娠中毒症、出血の順に多く、各年代羊水栓塞及び循環障害は最高率を示し、本土では妊娠中毒症が増し、離島では出血が減少する傾向を示した。また本土・離島いずれでも一般に、死亡例では経産が多く、既往症は妊娠中毒症、心疾患、糖尿病などの順で、異常が発現してから5時間以内で死亡するものは約55%を示し、死亡時期は産褥時が減少の傾向を示した。年令別死亡率では35才以上のものが高率で本土で最近これがめだっていた。母子健康手帳の交付を受けなかったものや受診回数の4回以内は本土で高率の傾向を示した。離島や僻地では減少の傾向を示す

とはいえまだ自宅分娩があった。

したがって本県の妊産婦死亡対象としては、高年の妊婦とくに経産婦の把握と検診に努め、羊水栓塞、循環障害、妊娠中毒症、糖尿病に注意することではないかと思うが、この点は最近の傾向からみて本土でとくに注意を喚起するものである。

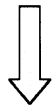
表1 妊産婦死亡の成因

年度 地域 疾患	昭和49～51年			昭和52～53年			昭和54年			昭和52～54年		
	本土	離島	計	本土	離島	計	本土	離島	計	本土	離島	計
妊娠中毒症	4	2	6(23.1)	5		5(27.8)	1	1		6		6(22.2)
子 癇	2	1	3	2		2				2		2
胎盤早期剝離	1	1	2	3		3				3		3
その他	1		1				1	1		1		1
出 血	1	4	5(19.2)	2	2	4(22.2)	3	3		5	2	7(25.9)
弛緩性出血		2	2	2	1	3	2	2		4	1	5
前置胎盤					1	1				1		1
子宮破裂	1	2	3				1	1		1		1
子宮外妊娠				1		1(5.6)	1	1		2		2(7.4)
産 褥 熱	1	1	2(7.7)									
その他感染症	2		2(7.7)				1	1		1		1(3.7)
その他	8	3	11(42.3)	6	2	8(44.4)	3	3		9	2	11(40.7)
羊水栓塞	3	2	5	1	2	3	2	2		3	2	5
循環障害	3	1	4	4		4	1	1		5		5
その他	2		2	1		1				1		1
計	16	10	26	14	4	18	9	9		23	4	27

数字は例数，( )は%，以下の表同様

表2 死亡時期

時期	年度		昭和49~51年			昭和52~53年			昭和54年			昭和52~54年		
	地域		本土	離島	計	本土	離島	計	本土	離島	計	本土	離島	計
妊 娠			4	1	5(19.2)	5	1	6(33.3)	1		1	6	1	7(31.8)
1~3ヶ月						1		1	1		1	2		2
4~7ヶ月			2		2	2		2				2		2
8~9ヶ月			2		2	1		1				1		1
10ヶ月以上				1	1	1	1	2				1	1	2
分 娩			3		3(11.5)	1		1( 5.6)	2		2	3		3(13.6)
第1期			2		2									
第2期			1		1									
第3期						1		1	2		2	3		3
産 褥			9	9	18(69.2)	8	3	11(61.1)	1		1	9	3	12(54.5)
0日			3	2	5	3	3	6				3	3	6
1~3日			3	3	6	1		1				1		1
4~7日			1	2	3	2		2				2		2
8~14日				1	1	1		1				1		1
15日~			2	1	3	1		1	1		1	2		2
計			16	10	26	14	4	18	4		4	18	4	22



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 研究方法

昭和 49 年から昭和 54 年の 6 年間に本県で発生した妊産婦死亡 60 例について、調査を行ったが実際に調査可能であったものは 53 例であった。